

オミクロン株 重症化しにくい？

新型コロナウイルスのオミクロン株は入院リスクが低いとする報告が海外から出ています。感染歴のある人やワクチン接種済みの人が増えたために重症化しにくくなっているとの見方もあるが、最新の複数の研究から、ウイルスの特徴の変化が関わっている可能性が浮かび上がってきた。

国内の研究グループ「G2P-Japan」は26日、ハムスターでの研究結果を、専門家の査読前の論文として公表した。感染の影響として「体重変

香港大「ウイルス量少ない」 英「入院リスク5分の2」

化」に着目すると、デルタ株に感染させた場合は5日間で約15%減った。オミクロン株に感染させた場合は変化がみられなかった。詳しく調べると、デルタ株の場合は、ハムスターの肺の細胞の広い範囲に感染が確認された。オミクロン株ではまばらだった。

ハムスターでの研究をそのままヒトに当てはめられないが、研究グループの福原崇介

・北海道大学教授は、「肺の中での感染の広がり方が明らかに異なる」と指摘する。実際にヒトではどうなのか。香港大の研究者らがウェブサイトに発表した報告では、新型コロナウイルスをヒトの肺組織に感染させて24時間後のウイルス量が、従来株に比べてオミクロン株のほうが少ない

が、研究グループの福原崇介は、重症化の評価には注意点も

ある。過去に新型コロナウイルスに感染した人やワクチン接種済みの人には新型コロナウイルスに対する免疫がある。このため、重症化しにくい原因が、免疫によるものなのか、病原性の変化によるものか、区別は難しい。英国健康安全保障庁が23日公表した分析では、オミクロン株の感染者はデルタ株の感染者と比べて、入院リスクが約5分の2に減っていた。ただ、分析できた人数がまだ少なく「初期の分析」という位置づけだ。

28日に更新された厚生労働省の「診療の手引き」でも、オミクロン株の重篤度は「明らかになっていない」とされている。重症化率が低くても、感染が広がれば、大きな影響が出るおそれがある。G2P-Japanの論文でも、「世界的に健康へのリスクが低い」と結論づけるには早すぎる」とする。

専門家、感染拡大で「帳消し」指摘

順天堂大の堀賢教授（感染制御学）は「重症化率が仮に半分になっても感染者が2倍になれば帳消しになる。感染が広がることには引き続き警戒するべきだ」と指摘。「改めてマスク着用や換気、3密の回避といった対策をより徹底してほしい」と話す。（野口憲太